

開催年月日 令和3年9月7日(火)
 質問者 日本共産党 真下 紀子 委員
 答弁者 健康安全局長 古郡 修
 がん対策等担当課長 佐藤 行広

質問内容	答弁内容
<p>一 北海道がん対策推進計画の中間評価について (一) がん検診の受診推進について ただ今報告のありました、第3期北海道がん対策推進計画中間評価の概要に関し、質疑させていただきます。昨年、第2回定例会の一般質問で、早期発見に向けた受診率の向上が必要なことから、新型コロナウイルス感染拡大下でのがん検診の受診の取組について質問しております。</p> <p>保健福祉部長は、「実施主体の市町村と連携し、検診延期の状況も勘案しながら、特定健診との同時実施など、効果的な取組を推進し、検診率の向上に努める」と答えていたわけですが、この間、どのような対策を講じてきたのか伺います。</p> <p>(指摘) 検診率の把握は、先になるとのことですが、やはり、コロナ感染に対する不安が高い中で、特段の取組が必要だということを、指摘しておきたいと思えます。</p> <p>(二) 禁煙・受動喫煙対策等がん対策の一層の推進について 北海道のがん対策において、報告がありましたように、禁煙・受動喫煙防止が極めて重要であることはいままでもないわけですが、進捗が遅れが見られると報告がありました。このままでは、2023年度、令和5年度の目標達成が非常に厳しい見通しではないかと考えるところです。禁煙・受動喫煙防止対策とその効果について、どのような状況なのか。目標を達成するためにはどのように取り組むのか伺います。</p> <p>再 (二) 禁煙・受動喫煙対策等がん対策の一層の推進について 受動喫煙防止のほうは効果も現れやすいし、それが動機付けとなって禁煙に至る方もいらっしゃると思います。しかし、今喫煙している方は、禁煙したいと考えなければ、そうしたツールにもなかなかアクセスしないわけですね。ですから、動機付けが非常に重要になると思います。禁煙に至らない理由、</p>	<p>【がん対策等担当課長】 がん検診の受診推進についてであります。道では、これまで、新型コロナウイルス感染症の流行下においても、道民の皆様へ、安心してがん検診を受診していただけるよう、検診会場では、「密」の回避や、換気、消毒などの感染防止対策が行われていることや、がんの早期発見のためには、コロナ下でも、定期的な検診の受診が重要であることなどについて、道のホームページへの掲載や、市町村、がんサポート企業等と連携し、リーフレット配布など、道民の皆様への周知に努めるとともに、がん検診と特定健診との同時実施や、個別の受診勧奨であるコール・リコールの実施について、市町村の取組を促進するなど、検診受診率の向上に取り組んできたところでございます。</p> <p>【がん対策等担当課長】 喫煙率の低下に向けた取組についてであります。道では、これまで、喫煙率の目標達成に向け、喫煙による健康への影響の普及啓発や、たばこをやめたい人へのサポート体制の充実などに取り組んできているところでありますが、国民生活基礎調査における本道の成人喫煙率は、平成28年の24.7%に対し、令和元年は22.6%と減少傾向にあるものの、他の都府県と比べ、依然として高い状況にあるところでございます。</p> <p>こうした中、道では、昨年3月に北海道受動喫煙防止条例を制定し、全ての方に望まない受動喫煙を生じさせない「受動喫煙ゼロ」の実現を目指し、道立保健所において地域住民の皆様や事業者の方々などを対象に受動喫煙の防止に関する説明会等を開催するとともに、必要な情報を道民の皆様へきめ細やかに提供するため、「北海道受動喫煙防止ポータルサイト」を開設するなど、条例に基づく受動喫煙防止対策を進めてきているところであります。</p> <p>道としては、喫煙率の目標達成に向け、禁煙支援等の取組をより一層推進するとともに、本年度、条例の基本計画として策定する「北海道受動喫煙防止対策推進プラン」に基づき、受動喫煙防止対策を総合的かつ計画的に推進していく考えでございます。</p> <p>【がん対策等担当課長】 本道の成人喫煙率が高い理由についてであります。道内の喫煙者の方々のご意見は把握していませんが、民間企業の調査などでは、喫煙者がたばこをやめられない理由として、たばこを吸うとリラックスできるため、自分の生活スタイルを変えられないため、吸わないとストレスが溜まり、逆に身体に悪</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>それから原因などを調査分析して、効果的対策を取ることが必要だというふうに考えるわけですが、この点について今後、検討していく用意があるのかどうか伺いたいと思います。</p> <p>私の周りにも喫煙されている方がいて、なかなか禁煙に成功しないんですね。とても苦戦しているので、よく分かるんですけども、十分、正しい理解が進むように、喫煙したから緊張が解けるんじゃないかと、逆に血管が収縮して血圧が上がるわけですから、ストレスも解消しないし、緊張も高まるということで、そういう正しい理解をしていただきながら、ぜひ禁煙に成功していくようにサポートしていく、私も一緒に頑張っていきたいと思います。</p> <p>（三）今後の取組について</p> <p>最後に、がん対策予算についてですが、お聞きしますと、道民1人あたりに換算すると昨年51円で、大変少ないと思っていたんですが、これが49円と、増えるどころか減少していることが分かりました。私も愕然としたんですけど、皆さんも愕然としたと思います。最小の予算で最大の効果を上げるということは行政にとっては当然のことですけれども、やはり、必要な予算は確保しないと、道としての強いメッセージが道民に伝わらないと考えます。検診による早期発見、症状を認知し、円滑に医療にアクセスできるよう、効果的対策を進めるために、がん対策について、今後、どのように取り組んでいくのか伺います。</p> <p>検診で早期発見しますと、亡くならず、QOLを低下させることなく生活し、働くこともできる時代が来ていますので、そうしたポジティブなメッセージもお伝えしながら、がん対策を一層進めていただくことを求めまして、質問を終わります。</p>	<p>いと思うためなどが一般的なものとされています。道としましては、今後、国や民間企業等が実施する調査結果を参考にするなど、喫煙者の方々のご意見を踏まえながら、たばこをやめたい人へのサポート体制の充実など、禁煙支援等の取組をより一層推進していく考えでございます。</p> <p>【健康安全局長】</p> <p>がん対策の今後の取組についてであります。本道では、全国に比べ、がん検診の受診率が低く、がんによる死亡率が高いという課題がありますことから、対策を効果的に進めるため、検診の受診率向上を、がん対策の重要な柱の一つとして取組を進めてきたところです。</p> <p>がん検診の実施主体であります市町村においては、住民の方々が受診しやすい環境の整備等に努めているものと承知をしていますが、道としては、今後、受診促進に係る道内外の取組事例を収集し、先進事例を市町村に情報提供するほか、企業等の皆様と連携した普及啓発の取組を強化するなど、がんの疑いのある方々を、早期に、かつ確実に医療につなげられるよう、検診の受診率向上の取組を一層推進するとともに、患者の方々が安心して暮らせる社会の構築に向け、がんと診断された時からの緩和ケアや治療と仕事の両立支援など、各般の施策について、がん対策推進委員会の御意見を伺いながら、市町村はもとより、企業や医療機関とも連携を図り、がん対策を総合的かつ計画的に推進してまいります。</p>